

激濱黄潮潟激磯 潟磯猪封潟激 漢 濟 璞 漢 濟 潘 漢
～ 障害者の虐待防止法施行について ～

りじちょう あくやま はづき
理事長 奥山 葉月

「児童虐待の防止等に関する法律」、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」、
「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」として10月1日やっと、「障害者
虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行され、多くの「被虐待者」が保護さ
れることとなりました。

この法律の中には「市町村障害者虐待防止センター」の設置が義務付けられており、立川市でも障害
福祉課内に新しく開設されました。「虐待防止センター」の業務は、通報又は通報届出の受理をする
こと、養護者による障害者虐待の防止及び養護者による障害者虐待を受けた障害者の保護、障害者及
び養護者に対して、相談、指導及び助言を行なうこと、障害者虐待の防止及び養護者に対する支援を関す
る広報その他の啓発活動を行なうことです。立川市でも24時間電話相談窓口、虐待を受けた障害者の
一時的な受け入れ先の確保、市広報による「虐待防止センター」の啓発活動などが進められています。

当団体でも10月5日に「障害を持つ人の虐待防止ワークショップ」を行ない、障害を持つ人、その家族、
ヘルパー、コーディネイター、相談員など37名の方々にご参加いただきました。障害福祉課よりご挨拶
と虐待防止センターのご説明をいただき、講師としてCIL湖北代表 佐野武和さん、ファシリテーター
に日本障害者リハビリテーション協会課長 奥平真砂子さんをお招きし、前半は「虐待」についての
お話を、後半は障害を持つ人と持たない人に別れワークショップを行ないました。

これまで権利擁護の一環として、独自に障害者の虐待問題に関する実施を行なってきましたが、法的根拠も無く、孤軍奮闘していました。そこで感じてきたことは、「虐待」とは氷山の一角であり、家庭内、施設内などのさ
まざまな問題が一番の弱者に向けられ、表面化したものであるということです。「被虐待者」の保護だけ
で解決するものではなく、根本的な問題を明らかにし、介入していくことが必要となります。その点から
はこの法律に多いに期待をしています。

しかし、その半面、法律が施行されましたが、それが実際にどのように実施されるのか?また記載され
ているように既存施設、機関だけで本当に虐待から障害者を守り、虐待を防げるのか?きちんと、経過を
みていかなくてはいけないことも事実です。
当団体としても1人でも多くの「被虐待者」が守られ、また「虐待」となる前に抱えている問題に気づ
き、改善に向けられるよう、協力していきたいと思っています。

相談業務

かみはんきょうどうじぎょう
上半期の相談業務、身体障害の方は障害状況の変化により新たなサービス利用を始める方が多く、
せいいどじょうまうしきょうほんにんきぼう
制度について情報提供、ご本人のご希望をお聞きしながら主体的に地域生活を送るためのサポートや、
サービス調整を進めました。また、知的障害の方ではご家族や支援機関との連携だけでなく、ご近所や
じちかい
自治会の方にもご協力いただき、地域の様々な資源を活用していただいた相談もありました。
しょうがいじゅべつ
障害種別を問わず、地域での生活に不安や悩みを抱えている方も多く、障害があり、同じ立川市で生き
ている仲間という立場からピアカウンセリングの時間を持ち、ご本人の気持ちを丁寧に聞き取りながら相談
しょんおこ
支援を行ないました。

たじぎょう

自立支援協議会

かみはんきとりくせんたいかいがついたちおこんねんどがつせつりつぎやくたいぼうし
上半期の取組みとしては全体会を6月1日に行ないました。今年度10月から設立される虐待防止センターの報告を受け、協議会として連携をとっていく必要性を確認しました。

ほうこくきょうぎかいれんけいひつようせいかくにん
がつかつかあこせいかくせんもんぶかいさくねんどふかえこんねんどとりくけんとう
7月3日に行なった生活専門部会では、昨年度の振り返りと今年度の取組みについて検討しました。これまで取り組んできたヘルパー講習会や事例報告会などを見直し、事業所連絡会など他の関係機関と連携をとって進めることになりました。

○講演会「障害者虐待防止法と私たちの暮らし」

○講演会 障害者雇用防止法と私たちの暮らし
へいせい がつ にち にち、 うけつけ

平成24年11月18日(日) 受付：13：00 開演：13：30～15：00
にゅうじゆうわいりょく ちくよしおつめいじゅう

立川市女性総合センター「アイム」ホール／入場無料（直接会場にお越しください。）

こうし おおいし こういちろうし ほうじん パンダ ジエイふくだいひょう べんごし
講師：大石 郎一氏（NPO法人PandA J副代表・弁護士）

○展示・体験・相談会

しょいち 小体歌・旧歌譜

平成24年11月20日(火)~25日(日) 10:00~16:00 初日のみ13:00~

立川市役所多目的プラザ

- ・市内小学校4年生が描いた障害者に関する絵の展示
 - ・福祉機器展示相談(リフト、コミュニケーション機器、i-p a d で利用できるアプリ等の紹介)
 - ・市内福祉団体の紹介パネルや作品展示、立川市障害者虐待防止センターのパネル展示
 - ・車いす体験、幻覚・幻聴体験
 - ・ピアカウンセラーによる相談(14:00~16:00)

しばさきがくしゅうかん
些崎學習館

しょうがいしゃふくし じゅうせんじ てんじ

しないふくしだんたい てんじ

障害者福音サービスのハイル展示 市内福音団体のパンフレット展示
障害者福音相談 11月23日(金・祝)25日(日)10:00~16:00(要予約)

(つるぞの まこと 鶴園 誠)

地域生活支援センター・パティオ

上半期事業報告

<2012年度上半期事業報告>

登録利用者数 91名 / プレ利用者数 12名 (2012年9月末)

相談支援

今年度上半期の特徴としては新規相談の依頼が増えています。新規相談を希望される方は福祉制度や機関の利用が初めての方が多く、病院や行政機関からの紹介でいらっしゃる方がほとんどでした。パティオでは常時15~20名程度の方の登録に向けての個別面談、プログラムのプレ利用対応をさせていただいています。

登録利用者に関しては、関係機関の紹介や連絡調整、日常生活に関する総合的な相談を行ないました。精神障害者支援関連の関係機関だけではなく、身体疾患対応の為、医療機関との連携が必要となるケースも自立ちます。また、高齢や児童といったご家族に必要な支援機関の紹介、連携も増えております。

面談…722件(6件/日) 電話…5488件(44件/日) 訪問…376件(3件/日)

メール…318件(3件/日) 関係機関調整…1228件(10件/日)

プログラム

利用者がご自身の課題を整理することを目的とした「アセスメント」機能を重視したプログラム活動を行ないました。新規相談の希望者が多くいらっしゃったことから、社会へのはじめの一歩、まずは家から外出することを目指すプログラム「出るDay」や通所資源の利用のあしがかりとなるプログラム「お茶の子ハイサイ」の利用者数が増えています。

<オープンスペース、プログラム利用> *のべ人数/実施回数

[オープンスペース…404名/126回]

[レディースデイ…48名/11回]

[出るDay…142名/14回]

[お茶の子ハイサイ…143名/22回]

[AIプログラム…107名/12回]

[夕食サービス…134名/23回]

[講座プログラム…ヨガ 40名/4回 ・パソコン教室 30名/4回]

普及啓発

ニュース発行…計260部/3回

講座講師受入(ヨガ、パソコン教室)…計8回

実習生(実人数)

精神保健福祉…1名

杏林大学病院看護科…4名

昭和の森看護科…7名

当事者による退院支援グループ(立川)への支援・協力

..多摩あおば病院訪問6回 定例会6回

東京(立川しみん祭)への参加と協力

明治学院大学への当事者講師派遣コーディネート

障害者週間実行委員会

<立川市および市内関係機関との会議>

自立支援協議会委員 立川市精神障害者グループホーム連絡協議会

地域精神保健福祉専門部会委員

立川市精神保健福祉業務連絡会 たちかわ退院支援会議 たちせいれん

地域生活支援センター多摩プロック会(TTN)地活連

9月に登録利用者へアンケートを行なわせていただきました。登録利用者の声を元に、包括的な相談の窓口として、病状の安定に関する支援や生活状況のコーディネイト、一人ひとりに合った社会資源へ繋ぐためのアセスメント機能の強化、生活に関する目的別のプログラムの提供など、これまで以上にパティオらしい、よい支援を構築していきます。

(遠藤 雅子)

就労支援部門 (立川市障害者就労支援事業)

上半期事業報告

新規利用登録者は20名(知的障害14名、精神障害3名、身体障害3名)でした。今年度は、新規学卒者が特別支援学校の移行支援に基づき、7校から11名が登録されました。

関わる学校数も増え各校で進路の進め方が異なるため、新卒者の受け入れに負担が生じてきました。そのため来年度の受け入れがスムーズに行なえるよう、関係各校に当センターへの利用登録の流れを書面でご案内し、ご協力をお願いしました。新規利用のご相談は、登録に至らなかつた方も含め20件以上あり、生活面からの準備を要する方が多く見られました。また、就職19件、離職8件と共に多く、離転職が活発な傾向が続いています。このところ、来年度からの雇用率改定に伴い採用活動が活性化している様子が窺えます。上半期は、支援学校新卒者や新たに障害者を雇用した事業所への初期の職場内支援が非常に多くありました。

準備訓練プログラムでは、高齢者施設清掃実習に4名、市役所庁舎実習に8名が参加しました。ご協力頂いている高齢者施設が増改築され、清掃エリアや作業方法などが変わり、マニュアルを全面的に見直しました。現在は新たな形でスタートしています。状況が変わっても引き続き実習を受け入れて下さるため、非常にありがとうございます。

その他のプログラムとしては、お楽しみ会(知的障害者対象)を5月に実施し、32名が参加されました。生活講座として「携帯電話の上手な使い方」というテーマで、携帯電話会社の方から直接お話を聞きしました。マナーやルール、契約被害や金銭トラブルなど多岐にわたる内容でした。サイトへのアクセスなどで、気づかぬうちに自分の個人情報が流出していたり、時には犯罪の加害者側になってしまふことがあるため、充分な注意が必要とのことでした。今や生活必需品でもある携帯電話を安全に使うことの難しさと重要さを感じられました。

また茶話会(精神障害者対象)を9月に開催し、夏バテ対策について意見交換をしたり、これから就職を目指す方へアドバイスを頂くなど、楽しい時間を過ごしました。夏は体調を崩しやすいため、在職中の方はかなり生活管理に取り組まれている様子が分かりました。就職を目指す方へのアドバイスでは、就職前の準備の重要性、病気を開示してサポートや配慮を受けながら働くことの大切さ、自分の希望だけでなくできる仕事を探すことなど、就職を果たした先輩方から実感のあるお話を聞きました。



お楽しみ会 生活講座 「携帯電話について」

地域ネットワークについては、立川市自立支援協議会就労専門部会では、庁舎実習を活用したネットワーク形成や企業からの講演を今後企画しています。また多摩地域の就労支援センター連絡会(3回開催)では「新規相談」や「準備支援」などのテーマで意見交換が行なわれました。この会は現在26市1町、合計30カ所の支援センターが参加し、昨年度から幹事会の主催で実施されています。多摩地域全体を対象としたものはこの会のみであるため、その役割は重要と思われます。引き続き市内および多摩地域のネットワーク形成に尽力していきたいと思います。

(井上 貴央)

激濁激濁激濁激濁
職場紹介 PART 15 - 株式会社日本フーズデリカ -

潭濁激濁激濁激濁

今回ご紹介する株式会社日本フーズデリカは、コンビニ

エンストアのお弁当やサンドwichを製造しているフジパングループの関連会社です。福生工場では城澤龍宏さんが清掃員として働いています。

城澤さんは養護学校卒業後、2社で27年間、運搬作業員として働いてきましたが、会社の業務縮小に伴い昨年3月に退職し、当センターに登録されました。

登録当時の城澤さんは身だしなみが不十分で、同じ服を何日も着ていたり、ヒゲの剃り残しや歯磨き忘れがあり、気持ちも少し不安定で、再就職には課題を感じられました。しかし、「高齢の両親を養うために働きたい」

という強い思いから、身だしなみを整え、当センターでの様々な実習に真剣に取り組み、昨年12月に再就職が決まりました。

福生工場では、同時期にもう一人、別の就労支援センターに登録している方も採用され、障害のある二人が、はじめて製造ラインの清掃を担当することになりました。そこで支援機関が連携し、会社のご協力を得ながら、入職前に清掃を中心とした業務の組み立てを行ないました。年齢や職歴、障害特性の違う二人にどのように業務を割りふるかにとても苦労しました。入職後も連日、ジョブコーチとして職場に入り、業務内容の修正・変更を繰り返し、何とか1ヶ月かけて業務を確立させることができました。

勤務は週5で平日の11時から20時です。作業は、午前中に食材庫の掃除機がけや洗浄機周辺の水洗い、午後にゴミ庫清掃や廃棄食材の処分を一人で行ない、夕方からは二人で協力して、製造ライン終了後の床のモップがけを行なっています。繁忙期の5月から8月は生産量が倍以上になり、ゴミの量が増えたり、製造ラインの終了時刻が遅くなったりするので残業もあります。それでも嫌な顔ひとつせず、真面目に作業する城澤さんは、会社からとても頼りにされています。一生懸命になるあまり時間をオーバーしたり、必要以上にやり過ぎてしまったりするところが課題ですが、職場訪問時に時間がかかりすぎた

原因をさぐり、スケジュールに照らし合わせて、作業の枠を再確認してもらうことで改善されつつあります。

1日8時間の体を使った作業は若い人でも大変だと思いますが、年齢を感じさせないタフさで入職後、無遅刻、無欠勤を続けています。そんな城澤さんのリラックスタイムは、仕事帰りにお気に入りのラーメン屋で食事をすることです。最近は会社近くの「つけ麺屋」にはまっているそうです。

家族のために頑張る城澤さんが、日本フーズデリカの社員としてこれからも働き続けられるよう、当センターとしてもしっかり支援していきたいと思います。

(永井 純也)



力を入れて汚れ落とし！



豊富
細かいゴミも見落とさない！

環瀬磯津漁港
目的別プログラム、事業

地域の障害の仲間（協力員）達と「春の楽市2012」に出店しました。（4月22日）

国営昭和記念公園にて毎年恒例となっているこのイベントには、今年もたくさんの方が訪れました。私たちが出店した「カフェぴあぴあ」にも多くのお客様に来て頂き、用意したコーヒー200杯はあっという間に売り切れ、また手作りの工芸品もたくさんの方に買って頂きました。

このふれあいの機会を通じて、地域に暮らす障害当事者の方々をいろんな方に知って頂きました。また来年も協力員の仲間たちと出店したいと思います！（大石 幸治）



「調理の鉄人～簡単に美味しく、栄養のバランスが摂れるメニュー～」をテーマに、実生活に役立つ調理ＩＬプログラムを行ないました。（7月6日）

安価の冷凍野菜を入れたけんちん汁や、シリコンスチーマーによる温野菜サラダ、エリンギとお吸い物の素を入れて炊く混ぜご飯、流行の塩麹だけで味付けした焼肉など、ひと手間でできる調理をみんなで体験



しました。参加者からは「こんなに簡単に美味しくヘルシーにできるなんて、ぜひ家でもやってみたい」といった声が多くあがりました。改めて生きる基本となる“食”について知る機会ともなりました。日々続していく生活の中で、毎回一からすべて作るのは大変ですが、今回のような簡単メニューなら、気軽に実生活で作れます。今後もまた、調理について楽しいプログラムを考えていこうと思います。（大石 幸治）

「被災地を忘れない 避難方法を確認しよう」をテーマに2日間にわたり防災ＩＬプログラムを行ないました。（8月15.29日）

3.11から約1年半が過ぎ、1日目は、改めてその時のこと振り返る時間として、現地の障害当事者支援に向かった鶴園からの報告やビデオ上映を行ないました。2日目は、自室の間取り図や立川の防災マップを利用して避難経路を考えるグループワークなど、災害時の空間イメージトレーニングを行ないました。これまでの時間軸で考えるイメージトレーニング（自黒巻）とは異なり、具体的に自室の危険箇所が出され、「ここをなあそう！」との声もあがりました。また避難経路を考える中では、当初想定していなかった近隣の避難場所（病院、福祉施設）を見つけた方もいました。

2日間を通して、具体的に参加者が自身が気づく時間となり、「毎年防災企画をやって欲しい」との声も頂き、定期的に自分の生活や地域を見直す時間の大切さを実感しました。（鈴木 徳子）



磯 磯 海 鮎 潤 漢

知的事業 プログラム報告

自立生活センター・立川では、内山綾子さんと泉口哲男さんにご協力頂き、同じ知的障害のある仲間に向かた、生活に役立つ情報の提供や、プログラムの実施などの活動を行なっています。

自分の健康について考え方プログラム

2012年7月24日実施【参加人数：3名】 2012年8月4日実施【参加人数：2名】

健康について悩みがある人は少なくありません。健康に暮らし続けるためには、どんなことに気をつけ生活をしていけばいいのか？みんなで一緒に考えていくプログラムを企画しました。

1回目は、賞味期限とカロリーをテーマに行ないました。実際に賞味期限の切れた食品を用意し、表示を見ることの重要性について学んだり、自分に必要な摂取カロリーを計算し、自分に合うメニューを考えるといった内容で行ないました。参加者からは「一人暮らしの勉強になった。」「太らないように気をつけて食べ物を選ばなきゃいけないと思った。」という感想を頂きました。

2回目は、掃除と洗濯をテーマに行ないました。実際に掃除をし、ほこりを自らが身体に与える影響について学んだり、洗濯の方法について情報を共有するといった内容で行ないました。参加者からは、「職場でも掃除をしているので参考にしたい。」「一人暮らしをはじめたばかりなので、ヘルパーさんと一緒に頑張ろうと思った。」という感想を頂きました。

作業所取材

知的障害があり、作業所へ通っている方はたくさんいます。日中活動をテーマとし、実際にどのような仕事をされているのか？立川市内にある作業所を取材させて頂きました。

取材日：2012年7月13日

ワークセンターまことくらぶ
就労支援B型の事務所です。就労プログラムとして製菓、ペン先、リサイクルなどの軽作業、充実した生活のためのプログラムとして社会生活技術訓練（S.T.T）レクリエーション、健康維持を目的としたスポーツなどを行なっています。

メンバーさんに聞きました！

Q. まことくらぶに通っていて楽しいことはなんですか？

A. ハッピーライフタイム（毎週水曜午後のレクリエーションの時間）が楽しい。お仕事することが楽しい。

スタッフさんに聞きました！

Q. メンバーさんと接するときに心がけていることはなんですか？

A. メンバーさんが気持ちよく働く環境を作るよう心がけている。

～作業所「ワークセンターまことくらぶ」ってどんなところ？～記事より抜粋（栗田 衣里菜）

しんじんしようかい

新人紹介

今年度より地域生活支援センター パティオに職員として入りました中村朋子です。

甲子園球場のある関西の兵庫県出身です。

この4月に東京に出てきたばかりで、見るも触れるも初めてのことばかりですが、この立川の地で多くの人と出会い、係わり合いながら、共に成長していくたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

